ISSN 1881-283X

陸の水

No.83

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター（2019 年 7 月 12 日）
発行：日本陸水学会東海支部会
連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市
川島笠田町官有地無番地
国立研究開発法人土木研究所
自然共生研究センター
末吉　正尚
Tel:0586-89-6036、Fax: 0586-89-6039
E-mail: m-sueyoshi55@pwri.go.jp

目次

■ 2019 年度年間スケジュール （p. 1）
■ 第 16 回陸水サマースクールの案内 （p. 2～4）
■ 第 34 回東海陸水談話会の案内 （p. 5）
■ 社会貢献活動報告：御嶽ショートレターNo. 1 （p. 6～7）
■ 編集後記 （p. 8）

2019 年度年間スケジュール

本年度の日本陸水学会東海支部会の主な行事の日程を幹事会において決定しました。各行事の詳細は、開催が近づきましたら、適宜陸の水ニュースレターおよびホームページにてお知らせいたします。皆様、ご予定を確認のうえ、ぜひご参加ください。

行事名	日程	開催地
第 34 回東海陸水談話会	7 月 19 日	愛知工業大学本山キャンパス
第 16 回陸水サマースクール	9 月 21 日～22 日	富山県黒部市
第 35 回東海陸水談話会	10 月 18 日	愛知工業大学本山キャンパス（予定）
第 36 回東海陸水談話会	12 月未定	未定
第 22 回研究発表会 第 23 回総会	2 月 15 日～16 日	未定

第 16 回サマースクールの案内

「巨大ダム＋広大古民家～大自然に囲まれた大きなダムを体験し古くて大きな家での自然豊かな生活を満喫しよう」

日時　：2019 年 9 月 21 日（土）～22 日（日）（1 泊 2 日）
場所　：農村文化伝承館山本家、黒部ダム
宿泊先：農村文化伝承館山本家（〒938-0171 富山県黒部市宇奈月中谷 670）
https://www.info-toyama.com/spot/51048/

集合場所
現地集合（9 月 21 日(土)14:00 に**道の駅うなづき**：〒938-0861 富山県黒部市宇奈月町下立 686） https://www.michi-no-eki.jp/stations/view/460

実習内容：古民家での昔の生活体験・日本一のダム見学
古民家で、カマドでのごはん炊きや囲炉裏での干物焼などを体験しよう！夜は、都会では見られない満点の星空をみんなで観察します。二日目は日本で最も堤高の高い黒部ダムに行って、放水観察やガルベ乗船などを満喫します！

参加費（予定）
大人（中学生以上）8,500円、年金生活の方8,000円、小人（小学生）6,500円
※お子さんは、必ず保護者の方のご同伴をお願いします。費用には、宿泊代、夕食・朝食代、現地交通費、保険料を含みます。初日・二日目の昼食代は含みません。

募集人数 40名

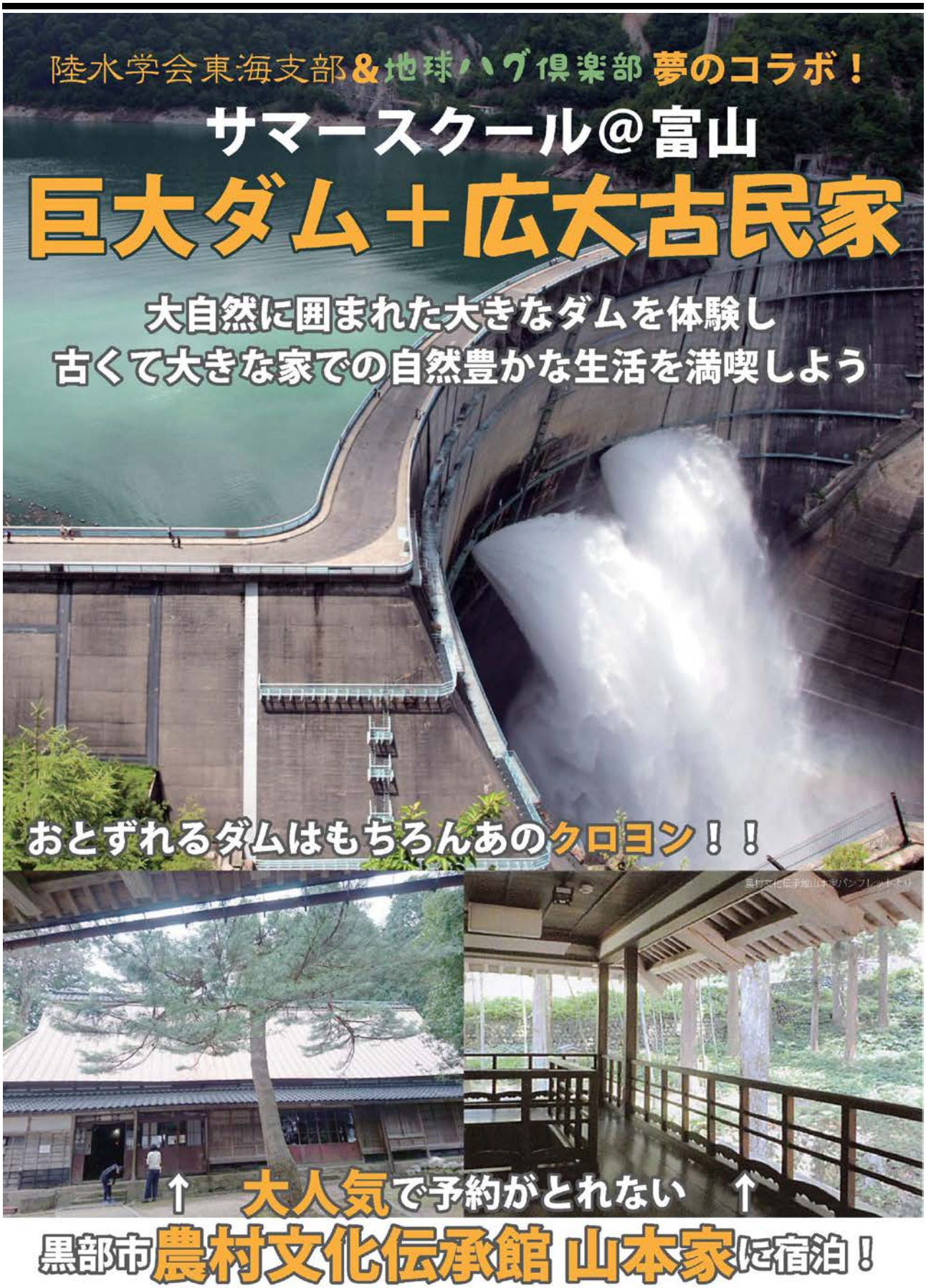
必要品
宿泊用具（着替え、洗面用具）。宿泊場所のお風呂を利用される場合は、タオルをお持ちください。車で5分ほどの場所に温泉施設・バーデン明日があります（バスタオル貸し出し200円）。
バーデン明日：http://www.baden-akebi.jp/

申し込み方法
下記リンク（又は右のQRコード）のフォームにて参加者情報をご記入ください。
https://forms.gle/EBWdBdrUebkzwMUE6
上記リンクが利用出来ない場合などは、sskurobe@gmail.com
宛にE メールでご連絡ください．追って必要な情報を伺います．

申し込み〆切り 2019年9月1日（日）※参加者には、後日改めて詳細な案内を差し上げます。

連絡先 サマースクール行事担当　椿　E-mail：sskurobe@gmail.com

ISSN 1881-283X



スケジュール（予定）

9 月 21 日 (土)

14:30　農村文化継承館に集合 むかしの大きな家を
　　みんなで遊び体験する
18 時頃 夕食（里山料理）　囲炉裏の火を囲んで昔の生活の
　　ことを聞いてみよう！
20 時頃 星空の観察体験（都会では見られない星空を
　　見てみよう！）

9 月 22 日 (日)

6:00　起床 朝食準備体験（薪カマドご飯炊き、味噌汁、
　　囲炉裏での干物焼など）
7 時頃　朝食
8 時頃　黒部ダムに向けて移動
11 時頃 扇沢駅より電気バス乗車
　　観光放水見学、散策、昼食（各自）、
　　ガルベ乗船
14 時頃 黒部ダム駅より電気バス乗車
　　扇沢駅で解散

参加費（予定）

大人（中学生以上）8,500 円、
年金生活の方 8,000 円、小人（小学生）6,500 円
※お子さんは、必ず保護者の方のご同伴をお願いします。
費用には、名古屋発着の宿泊代、夕食・朝食代、
現地交通費、保険料を含みます。（初日・二日目の昼食代は含みません）

募集人数

40 名を上限とし、超過した場合には申請順に受け付けます。

申し込み方法

下記リンク（又は右の QR コード）のフォームにて参加者情報をご記入ください
https://forms.gle/EBWdBdrUebkzwMUE6
上記リンクが利用出来ない場合などは，**sskurobe@gmail.com** 宛に E メールでご
さい．追って必要な情報を伺います．

主催　日本陸水学会東海支部　http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/
共催　地球ハグ倶楽部　https://chikyu-hug.club/

ISSN 1881-283X

第34 回 東海陸水談話会の案内

第 34 回東海陸水談話会

日本陸水学会東海支部会研究班

第 2 回調査報告会

「御嶽山麓・濁川の生きものと水環境～酸性水,崩壊土砂,火山噴出物とそれに適応する水生生物の営み～」

「御嶽山噴火が水域生態系に及ぼす影響」を明らかにすることを目的とし，日本陸水学会東海支部会研究班が最近二ヵ年にわたり，木曽森林管理署管轄国有林内にて実施した調査研究※の成果をご紹介します．

（※ 国有林 2343-2347，2357，2371-2373，2378 への入林許可を得て実施しています．）

2019 年 7 月 19 日 金

18：00～20：00

場所： **愛知工業大学本山キャンパス**

〒464-0807 名古屋市千種区東山通 1-38-1

http://www.ait.ac.jp/access/motoyama/

御嶽山の南山麓に位置する濁川は，酸性河川として知られ，1989 年の御嶽崩れ，2014 年の噴火の影響を大きく受け，治山整備され，復興しながら現在に至っています．日本陸水学会東海支部会では，2014 年の噴火以降，濁川を含む王滝川水系で，水質，付着藻類，水生昆虫，魚類を含む，水環境に関する調査を進めて参りました．本報告会では，濁川の特異的な水質環境における水生生物分布の現状を踏まえ，崩壊や噴火の影響を推測しつつ，火山山麓に成立してきた特殊な陸水生態系についてみなさんと情報共有し，今後のあるべき姿を考えたいと思います．

本研究は，WEC 応用生態研究助成（一財・水源地環境センター，2015-04，2017-05）の助成を受けて実施されました．また，令和元年度より科学研究費補助金 基盤研究(B)（課題番号：19H04318，研究代表者：田代喬）の助成を 4 年間の予定で実施されています．

協賛：ため池の自然研究会，応用生態工学会名古屋

本談話会は，土木学会継続教育（CPD）制度のプログラム（JSCE19-0796）として認定されています．

研究報告

（1 人 20 分程度）

――

「濁川を 1 年間眺めてみて：
水質調査から見えてきたこと」
松本嘉孝：豊田工業高等専門学校

――

「酸性および中性支川流入による
王滝川本川水質特性への効果」
宇佐見亜希子：愛知工業大学

――

「無機酸性河川における藻類の生活」
野崎健太郎：椙山女学園大学

――

「火山活動に伴う強酸性水および
大規模攪乱が魚類群集に及ぼす影響」
小野田幸生：土木研究所

――

「御嶽山噴火口から流出する濁川周辺の
景観：UAV の撮像からわかること」
田代喬：名古屋大学

――

「地理学的に見た王滝村の
人間活動と河川環境」
谷口智雅：東京大学 CSIS

申込不要
参加費無料

社会貢献活動報告：御嶽ショートレターNo. 1

「調査の前・先にあるもの？」

豊田高専　環境都市工学科　松本嘉孝

今回から、陸水学会東海支部のメンバーによる、御嶽山麓での調査時の出来事、体験したこと、感じたこと、皆さんへぜひ伝えておきたいことについて報告させていただくことになりました。私たちは 2014 年 9 月の御嶽山噴火の 3 ヶ月後から調査を開始しています。その学術的な結果や詳細については、陸の水第 74 号などに掲載されていますのでそちらをご覧下さい。このショートレターでは、肩肘張らない話題の提供ができればと考えています。これを機に、他の支部会メンバーにも御嶽調査・研究に興味を持っていただき、一緒に調査や夜の懇親会の仲間に入っていただければと思います。

まず、第 1 回目として、豊田高専の松本が担当します。今回は、御嶽山の調査時に起こったトラブル、調査への心構えについて話をしたいと思います。

私たちの調査は 1,100m 付近ですが、冬の調査は寒く、厳しいものでした。これまでは調査地が雪に閉ざされると、車で近くまでいけないこともあり調査を断念することが多かったのですが、昨年の 2 月に、「1 ヶ月に一回御嶽山で調査を行う！」と一念発起したこともあり、普段怠け癖のある私が珍しく、雪が降ろうが槍が降ろうが安全だけには考慮して調査を行う気になりました。

写真 1 にもある 2019 年 2 月 1 日の調査時は一面銀世界でした。車を置いて、普段であれば 45 分の登山道をこの日はスノーシューを履いて片道 2 時間ほどかかりました。グローブや上着を着込みしっかり防寒対策をすると共に、ヘルメットやゴーグル（私は明るいところが苦手なので)、行動色と非常食もしっかり準備して臨みました。もちろん、行動時間は常に気をつけていました。一方、冬場以外は軽装ですが、川の流速が大きいこともあるため、川に入る際にはウェイダー、ライフジャケット、ヘルメットを装着しています。写真 2 にもあるように、御嶽での調査は愛工大の宇佐見さんと共行なっており、精神面や相談相手として助けてもらっています。

写真 1　2019 年 2 月 1 日の調査
調査地：柳ヶ瀬にて

写真 2　2018 年 11 月 9 日の調査
調査地：下黒沢にて

調査を行う際には事故を想定した装備や準備をすることが求められます。私が参考にしているのは登山の際の心得です。また、私が所属している建設系の業界では、「ご安全に」という言葉が、「See you again」のように使われます。この、何よりも安全を優先することが私の調査のモットーです。先日、登山安全セミナーという会合に参加したときにも講師から、「山ではちょっとしたキッカケから、ドンドンと悪い方向に向かっていき、最終的には取り返しのつかない事態になってしまうことがある。どこかで、その悪い方向に向かっているということに気づき、負の連鎖を断ち切ることが重要」と言われました。科学的ではないのですが、経験上納得しています。この調査は噴火後ということもあり、調査を安全に進めることを強く意識しています。そのため、調査に対する安全意識が以前に比べて高くなったことも収穫の一つかと感じています。

現場では、リスクを冒さなければ獲得できないデータもありますが、安全面を考えると断念せざるをえない場合もあり、その気持ちを如何に抑えるかという辛さがつきまといます。そんな時、一緒に行動する仲間が客観的な意見を言ってくれるので、その存在は大きいです。楽しい仲間に囲まれながら、調査の楽しさと難しさ、自然の美しさと脅威を感じながら御嶽の調査を続けています。

（編集後記）

2019年度初めてのニュースレター配信になります。会員の皆様今年度も何卒よろしくお願いいたします。今年度は内田新会長のご意向もあり、年度計画を早めに決める方針となりました。主な行事である談話会、サマースクール、研究発表会・総会に関しましては、日程がほぼ決まっており、会員の皆様方に余裕をもったご予定の確保をして頂けることと思います。各行事に奮ってご参加いただき、東海陸水のさらなる発展にご協力いただけると幸いです。

今年のサマースクールは富山県黒部市の農村文化伝承館山本家と黒部ダムになります。私が幼少期を過ごした生家もこのすぐ近くにあり、雄大な北アルプスとのどかな田園風景、コスモス畑や冬の真っ白な積雪が原風景として強く残っています。ここで過ごした幼少期の経験が、生物や自然を対象とした研究を目指した要因の一つでもあります。きっと普段は経験のできない貴重な時間を過ごすことができると思いますので、お子さんとご一緒にぜひご参加ください。応募〆切は9月1日となっておりますが、人数の上限もありますので、早めのご応募お待ちしております。

談話会は今年度3回行うことが決まりました。一回目は案内でお知らせしたとおり、東海支部の社会貢献担当を中心とした御嶽研究グループの報告会となります。これまでにも学会などで報告が行われてきましたが、今回、東海陸水会員向けに報告会をして頂く次第となりました。そして、本号から御嶽研究の各研究員が執筆する御嶽ショートレターが連載されます。第一回目は社会貢献担当の松本さんの報告になります。フィールド研究を主体とする研究者にとって、最も大事な安全面に関しての心得がまとめられております。特に学生の皆さんに読んでいただきたい内容ですね。

（末吉　正尚）